

通リハ訪問リハ



別府リハビリテーションセンター

すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現

11

2025.10

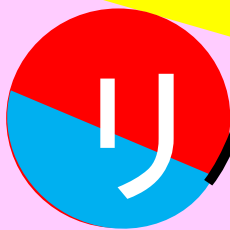
制作・発行
社会福祉法人
農協共済
別府リハビリテーション
センター
介護保険事業部
広報委員会



リハビリの力
Rehabili Information
ケアマネ体験・見学会2025



「ふくふく認証」
認証事業所



ハビリの



通所
リハビリ

■対象利用者

介護度：要支援2

症 状：頸椎症性脊髄症

期 間：9か月継続中

担当セラピストからコメント

向上！

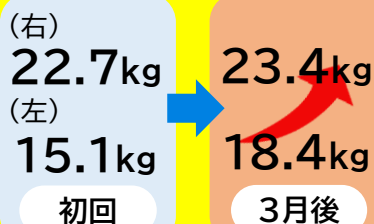
3ヶ月後の体力測定では「握力・TUG・CS-30」すべての項目で向上！

週2回、2時間半の利用。リハビリは下肢筋力・歩行訓練を中心に行いました。

数値でもわかるように着実な体力の改善が確認できました。

【リハビリの力】リハビリを行う前と後では、以前は外出時に歩行器を使用していましたが、リハビリを行うことによって現在、杖で外出できるようになりました。自宅内でも歩行器を使わずに移動できるようになり、生活の質（QOL）の向上を実感されています。在宅生活を続けていくためにもリハビリを継続して行うことが筋力の低下を防ぎ維持をしていくことが大切です。

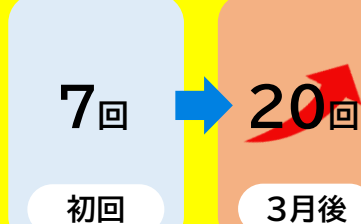
握力 にぎる



TUG あるく



CS-30 たちあがる

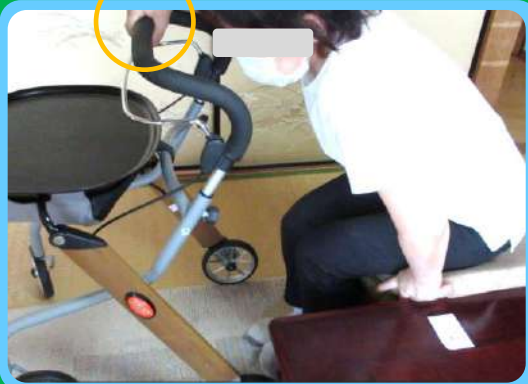


『歩行も立ち上がりもラクに！ 歩行車の変更で実施した安心サポート』



訪問
リハビリ

Before



歩行車を使って立ち上がろうとしましたが、ハンドルが高くて力をうまく使えませんでした。

歩行車
変更

After



低い位置で支えられるようになり、立ち上がりやすくなったことや車輪の幅と重量が増して、安定性が向上し、転倒がなくなったと利用者様も喜んでいます。

担当セラピストからコメント

【リハビリの力】自宅での転倒が続いたため、担当療法士が“コンパクト型”歩行車の変更を提案し立ち上がり易く安定して歩けるようになりました！

*福祉用具でお困りの際は、担当療法士にお気軽にご連絡ください。

Rehabili Information

＝リハビリインフォメーション＝

訪問
リハビリ
編

知っていますか?!

訪問リハビリには「言語聴覚士」がいます！

摂食嚥下の専門職である「言語聴覚士」が摂食嚥下機能（食べること・飲み込むこと）に、お悩みがある方に評価を行い、摂食嚥下機能に対するリハビリやアドバイスをを行います。



- ・飲み込みの評価で30秒間に何回、唾を飲み込めるか？
- ・聴診器を首の横にあてて、飲み込みの音や呼吸音から嚥下機能を評価・確認をしています。
- ・必要に応じて、低周波機器や舌圧測定器で感覚の改善を図ります。



経験豊富なリハビリ専門職が充実！

訪問リハビリでは「理学療法士・作業療法士」もご自宅へ訪問を行っております。日常生活の動き全般に対して、リハビリやアドバイスを行います。

ご自宅内外の安全な移動方法や動線の確保を行いながら、リハビリを行います。



床からの立上りやベッドからの起上がりなど、生活上の動き全般のリハビリを行っています。



趣味の園芸を行うために、環境設定や片手でもできるように道具の工夫を提案します。

ケアマネ体験・見学会2025

7月14・15日に『ケアマネ体験・見学会』を開催しました。

令和4年1月に新しく生まれ変わった「ふれあい・あおぞら」ですが、新型コロナウイルスの影響で見学会などができない期間が続いておりました。今回、当事業所を知っていただくことを目的して、訓練機器やフロア・浴室など事業所内を体験・見学していただきました。

2日間で40名以上の方が来所していただき、ケアマネジャー様からは「今後の支援に参考になった」「職員と情報交換ができてよかった」などの感想をいただきました。



■アンケート一部回答

【機能訓練をして卒業はありますか？】

通所リハビリの卒業は、利用者の「自立」と「社会参加」を目指すプロセスの一環ととらえています。卒業のタイミングはご利用者の生活目標達成・身体機能の改善・関係者（ご本人・ご家族・ケアマネなど）の合意が揃った時と考えます。卒業後も安心して生活できるよう、次のステップへの移行支援や自宅で取組める運動の提案も重要と考えています。

【リハビリ職の方が行う身体機能評価の仕方やそこから実際にどのように、それぞれの機器を提案したり、目標を立てていくのかなど、大まかで良いので知りたいです。】

目標達成に向けた質の高いリハサービスの提供として、S（調査）P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルを回すことを意識しています。ご利用者の現状把握（S）として定期的に身体機能評価を行います。握力・TUG・CS30・歩行速度を測定することで体力・下肢筋力・立位バランスの状況が把握できます。身体機能評価に加え、自宅での生活状況、疾患の特性、医師からの助言を考慮した上で訓練計画をたて（P）実施（D）します。3か月ごとに評価を行いリハビリの効果を確認、必要に応じて計画を見直します（A）このSPDCAサイクルを回しながら、目標達成に向けた支援を提供しています。



『通所リハ・訪問リハ』の
紹介動画などQRコード
からご覧になれます

今号では、頑張っている利用者様への取り組みや、効果を紹介させていただきます。リハビリの目標達成へ前進することができそうです。この号の発行に際し、ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。中々、暑さが落ち着かない昨今ではありますが、体調を崩さず元気に毎日通所リハをしましょう。山本 隆人

今回、ケアマネジャー見学会を開催させていただきました。多くのケアマネジャー様にご来場いただき、「ふれあい」「あおぞら」それぞれの特性を感じて頂けたのではないかと思います。利用者様に適切なサポートを提供してまいります。通所リハ 甲斐 邦生

編集後記